

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 1 年次生 中村 志聞

1. はじめに

私は、2 月 25 日から 3 月 11 日までの 2 週間、カナダで語学の短期留学をしました。ホームステイで、滞在中の平日の午前中は、語学学校であるユーロセンターズ・バンクーバーで語学の勉強をし、午後は周辺を観光して異文化に触れる事が出来ました。

2. 語学学校にて

ユーロセンターズ・バンクーバーで学びました。施設の中では、英語以外使用禁止となっていました。初日は文法とリスニングの基本的なテストをした後、7 つあるクラスの一つに編入されました。授業は 8 時 50 分から 13 時までで、前半と後半に分かれていました。前半は、文法の授業で、小テストをはさみながら、ある語彙を英語で説明するという事をしました。後半は、英語を使った実践的なアクティビティーを行いました。履歴書の書き方を練習したり、単語やイディオムを使ったミニゲームをしたり、出されたテーマに関してディスカッションまたはプレゼンテーションをしたりしました。ミニゲームは、例えば、スゴロク形式で各マスに動詞が書かれていて、止まった目の動詞を使って、特技や経験、好き嫌いなど自分に関する文を作って言うというものでした。ディスカッションのテーマは、主に、良い上司または悪い上司はどんな人物か、リーダーとしてあるべき姿とは、といったものでした。プレゼンテーションの内容は、1 回目は母国で活躍した女性を 1 人挙げて紹介するというもので、私は新島八重を紹介しました。2 回目は、20 世紀に活躍した人物についての紹介で、私は秋山真之と東郷平八郎の 2 人を挙げ、日露戦争において日本を勝利へと導いた 2 人の活躍について紹介しました。学校内の様子ですが、最近、需要が増えたようで、ブラジル、コロンビア、メキシコ等の南米系でスペイン語圏の留学生が特に多いと感じました。授業は、活気に溢れていました。生徒の皆は積極的に質問したり意見を言ったりして活発でした。特に見倣いたいと感じたのは、皆、文法が滅茶苦茶だったのですが、恥じたり躊躇ったりせず、積極的に発言していたことです。卒業の日には、短いスピーチをしました。緊張して少し詰まったのですが、思ったよりうまくできて、先生に褒めていただきました。短い期間の学習でしたが、様々な経験ができたと思います。



3. カナダはどんなところか

カナダの2月下旬から3月下旬の気温は、基本的に日本のそれと変わりませんでした。ただし雪が降った日は、気温が一気に5度を切るなど急激に落ち込み、朝方は暖かいのに、正午は非常に寒いという日がありました。また、雨や曇りが非常に多く、2週間の中でたった3回しか晴れず、雪が降る日もありました。

カナダは、多文化社会で、様々な人種、民族で構成されている国です。移民も多かったです。私もカナダを訪れる前は、白人の国というイメージがありましたが、実際は違い、中国系、韓国系、もちろん日系などのアジア系の移民の方々が大勢いました。黒人もいます。特に多いと感じたのが、メキシコ、コロンビア、ブラジル等のスペイン語圏である南米からの移民でした。出稼ぎに來たり、留学で滞在していたりと様々でした。

彼らは、スペイン語の発音が混ざったような独特のイントネーションの英語を話すので、すぐにわかりました。韓国系や、中国系の方も話し方に特徴があったので、すぐにわかりました。

このように、カナダはマルチカルチャー社会ですので、様々な文化が混在しています。ですから、スーパーに行くと、チャーハンの素やキムチだけでなく、味噌や豆腐まで手に入り、商品が実に多様でとても驚きました。また、都市のウォーターフロントでは、寿司屋さんやラーメン屋さんなど日本食が食べられる店があり、上に挙げたように、スーパーに行けば日本の食材が手に入るの、日本食が恋しくなるといったことは特にありませんでした。

また、学校の先生方は、茶道や戦国時代など日本のことを結構知っており、非常に驚きました。

町を歩けば、所々に教会があり、キリスト教社会であることがうかがえました。ホームレスが多かったですが、治安は非常に良く、安全だったと思います。

カナダでの滞在期間中、印象に残ったのは、カナダは自然が雄大で、その保護がしっかりされていることです。私が訪れた観光名所であるスタンレーパークやキャピラノブリッジは特に綺麗でした。通りのあちこちにはゴミ箱が設置されており、町の美化にも力を入れている印象を受けました。

以上のように、カナダは、マルチカルチャー社会で自然が豊かな国だと感じました。





4. ホームステイ

私は、2週間、ニルパさんのお宅で滞在させていただきました。インド系の家族で、母と娘2人の構成でした。私の他にも、もう一人、コロンビアからの留学生が滞在しており、彼も英語初心者でしたので、毎日会話を重ねることで、英語を話したり聞いたりする力が鍛えられました。

スーパーで味噌と豆腐と野菜を買って、家族の皆に、みそ汁を作ってふるまいました。喜んでもらえて、うれしかったです。

家族はキリスト教を信仰しており、日曜日には、礼拝に連れて行っていただきました。そこでも、英語の他に中国語が多くみられ、またアジア人の方も大勢見られ、やはり中国系の人がかかなり人口の割合を占めているのだという印象でした。

教会で、ニルパさんの友人とお話することができ、カナダに関する様々なお話を聞かせていただきました。



5. 最後に

この2週間、非常にたくさんの貴重な体験ができたと思います。カナダの様子や文化にも触れることができました。日本で見ることのできない風景を見ることができました。

この滞在で得られた収穫は、英語ができるとはこういうことだ、と実感することができたことです。というのは、最初は全く聞き取れなかった英語が、徐々に耳が慣れて聞き取れるようになっただけでなく、英語で物事を思考するようになったのです。例えば、普段私たちが、「りんご」と聞いて、リンゴのイメージを頭に浮かべるように、「apple」と聞いて、直接リンゴのイメージが頭に浮かぶ、といった具合です。今までは、聞いた英語を頭の中で和訳して理解していました。それを、和訳せずに。無意識に直接、英語のまま理解し、思考し、話す、ということが、わずかですができるようになりました。これからの英語学習の為の大きなヒントを得ることができたと思います。

この留学は、非常に有意義で、行って良かったと思いました。今までになかった視点から考

えたり、物事を見たりする機会が得られたからです。この貴重な体験を人生に活かしていくことができれば良いと思います。そのために、日々の努力をしていこうと改めて思いました。